



兵庫県議会議員

三木市選挙区選出

むらおか 村岡まゆこ

2018年 春号

県政レポート



一般質問へ初登壇！

兵庫と三木の未来を問う



プロフィール

- 昭和 53 年8月生 (39 歳)
- 兵庫県三木市出身
- 別所小 / 別所中 / 小野高校 / 立命館大学法学部 卒業、立命館大学大学院法学研究科 修了
- 2017 年 8 月兵庫県議会議員選挙 (三木市選挙区補欠選挙) で初当選 (1 期目)
- 自由民主党議員団所属
- 産業労働常任委員会 委員
- 予算特別委員会 委員
- 兵庫県議会神戸電鉄・粟生線を守る会議員連盟 事務局長
- 趣味: ゴルフ・音楽鑑賞・カメラ

村岡まゆこからのご挨拶

兵庫県議会議員の村岡まゆこです。皆様方には日頃より県政に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

私も皆様方の多大なるご支援により、昨年8月に執行されました、兵庫県議会議員選挙 (三木市選挙区) 補欠選挙にて初当選させて頂いてから、早いもので9か月の月日が経ちました。

兵庫県政をもっとわかりやすく、もっと身近に感じて頂けるよう、今回、私にとって初めてとなる県政

報告紙を発行致しました。是非ご一読頂ければ幸いです。

ふるさと三木市、そして北播磨・兵庫県の発展のために、皆様方のご要望や想いを少しでも実現していけるように、初心を忘れず力を尽くして参ります。

兵庫県政 150 周年の節目となる本年度も、皆様方のお声を謙虚に賜り、県政に繋げて参りますので、引き続きのご指導・ご鞭撻、叱咤激励を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成30年第339回定例兵庫県議会

(平成30年2月16日～3月23日：会期36日間)

一般質問 (平成30年2月23日金曜日)

質問者：村岡まゆこ

本会議等の様子をライブと録画映像で視聴できます。
<http://www.hyogokengikai.jp/broadcast/>



(2) インバウンド向け体験型ツーリズムの推進について

質 体験型ツーリズムへの注目度が増している。本県ではその展開に成果を上げている。だが、ゴルフツーリズムでは本県の圧倒的なブランド力を一層生かすべきであるし、農業体験ツーリズムや産業体験ツーリズムでも、まだまだ取り組む余地がある。

集客やPR方法が課題となるが、情報発信等だけでなく、県下各地の体験型ツーリズムの担い手等によるPRイベントの実施・出展や情報発信等への支援も必要である。こうした課題への対処も含め、体験型ツーリズムの推進について、当局のご所見を伺う。

答 ■ 知事 (井戸敏三)

本県へのインバウンド誘客において、体験型ツーリズムの充実は不可欠である。来年度は、体験型クルーズを更に促進し、県下の日本遺産を訪ねる外国人向けの体験観光ルートを新たに設定して世界に発信いく。また、農家、酒蔵、工芸品制作、フルーツ狩りといった体験プログラムについて、施設や担い手が外国人の誘客にも踏み出すような支援を開始する。

さらに、スポーツツーリズムを推進しPRしていく。ゴルフについては、国内外でのゴルフ関連の博覧会、商談会への出展や海外旅行エージェンシー等を招聘するなど、新たな支援を行っていく。今後とも県内の関係者とも連携を密にしなが、体験型ツーリズムのバラエティを増やして誘客に努めていく。

(3) 観光農園の振興について

質 近年農業は農業体験ツーリズムという新しい価値を得ている。観光農園は、農業体験ツーリズム推進と農業振興の両面で力強く推進していくべきで、観光農園人気は本県にとっても大きなチャンスである。

一方で観光農園には、観光シーズンとオフシーズンの収入格差や、観光客の受け入れ体制を整える負担という課題がある。観光農園の展開には、集客・PRの展開といった経営ノウハウの習得や財務基盤の安定化等、経営手腕が必要だ。そこで、観光農園の振興に向け、農業・農家の観点に立った独自の経営支援を行っていく必要があると考えるが、当局のご所見を伺う。

答 ■ 農政環境部長 (藤澤崇夫)

観光農園は、農業の収益性向上に有効であり、大都市近郊にある本県農業の強みを生かす取組である。収益性向上には、消費者ニーズを捉えた品目の生産や集客につながる効果的なPRの実施、施設整備に必要な経費の確保等への課題対応が必要だ。課題への対応として、県では、①新品種の生産技術の指導、②ひょうご農業MBA塾の開設、③中小企業診断士等専門家による指導、④6次産業化への支援、そして、⑤施設整備を支援する農業施設貸与事業等の施策を展開している。

さらに、平成30年度は、農業経営の法人化や個人経営の強化を図るため、新たな事業に必要な機械等の導入や人材雇用等を支援する法人化促進総合対策事業を創設する。この事業を活用して、新たに法人化して取り組む観光農園の展開や観光農園を営む法人の事業拡大を支援する。

今後とも農業経営体の経営力の強化により観光農園を振興し、収益性の向上と県民が農に親しむ機会の拡大を図っていく。

1 ツーリズムの総合的な推進について

(1) 県内各地へのインバウンド誘客の促進について

質 訪日外国人旅行者数は5年連続で過去最高人数を更新し、近畿のインバウンド消費額は伸びているにもかかわらず、本県の大阪、京都との差は開く一方である。県では、神戸、姫路城、城崎温泉の3拠点をつなぐひょうごゴールデンルートのPRを展開しているが、北播磨地域への誘客が非常に手薄ではないか。

交通の要衝たる北播磨地域の恵まれた観光資源を、ひょうごゴールデンルートの周遊ルートに戦略的に組み込み、その魅力をPRすることで、ひょうごゴールデンルートへの誘客に対する相乗効果も期待される。そこで、北播磨地域をはじめとする県内各地へのインバウンド誘客の促進について、当局のご所見を伺う。

答 ■ 知事 (井戸敏三)

平成29年に本県を訪れた外国人旅行者は、国の暫定集計では、過去最高の158万人で、26年以降、着実に増加して約2倍となっている。しかし、大阪、京都に大変大きな差が生じている。来年度は、ひょうごゴールデンルートをもっと強力にPRすることとして、SNSなどを活用した情報発信を強化することとしたい。

まず、中国向けにユーザー数約9億人のWechatにページを開設して観光情報を発信する。二つに、世界最大のオンライン旅行社、エスクペディア社と連携して海外オンラインプロモーションを展開する。三つに、日本を代表する個人旅行ガイド誌である地球のあり方の出版社との連携により開設したオンライン情報誌について、県内各地の観光情報を充実させて、多言語で発信いく。

こうした取組の中で、神戸、姫路城、城崎温泉から更に足を伸ばしてもらうため、例えば、北播磨について言えば、県民局や市町とともに、ご指摘のゴルフ場、山田錦、播州織などの観光資源を積極的にPRしていく。

最近聞いた話であるが、最近の日本酒ブームで山田錦の郷を尋ねる外国人が、造り酒屋も見学したいが、三木だどどうすればいいのかということが尋ねられたという話を聞いた。このような観光ポイントの更なるネットワーク化が必要であると考えます。

ひょうごゴールデンルートの更なるPRや多言語の案内表示やPRツールやWi-Fi環境の整備などにも取り組み、県内全域への外国人旅行者を呼び込むことにつないでいく。

2 三木市市街地の道路整備について

質 北播磨は交通の要衝として、兵庫県の北と南、兵庫と日本、日本と世界をつなぐゲートとしての使命を持った地域だ。その南に位置する三木市内の道路整備は非常に重要で現在、山陽自動車道の三木東IC-三木小野IC間におけるスマートIC計画、東播磨道の整備が進められている。

さて市内には渋滞交差点が5ヵ所あり、県では県道三木宍粟線の高木末広バイパスの整備を進めている。これより、県道三木宍粟線の本町交差点から福有橋、神戸電鉄三木駅周辺の交通混雑や渋滞緩和が期待でき、一刻も早い工事完了を期待している。

また、私が最も課題と考えるのは、県道神戸三木線の混雑・渋滞である。特に、神戸電鉄粟生線と並行する、緑が丘駅付近から志染駅付近までの区間が慢性的な渋滞を繰り返し、それを避けようとする車両が周辺道路に迂回することで、更なる渋滞を引き起こすという悪循環を招いている。中心市街地のにぎわいの創出やまちの再生を図り、三木市の元気で活気あるまちづくりを実現していくためには、現状の渋滞を解消し、三木市市街地の骨格を形成する道路整備が必要と考える。

そこで、県道三木宍粟線高木末広バイパスの整備と県道神戸三木線の渋滞解消に向けた取組について、当局のご所見を伺う。

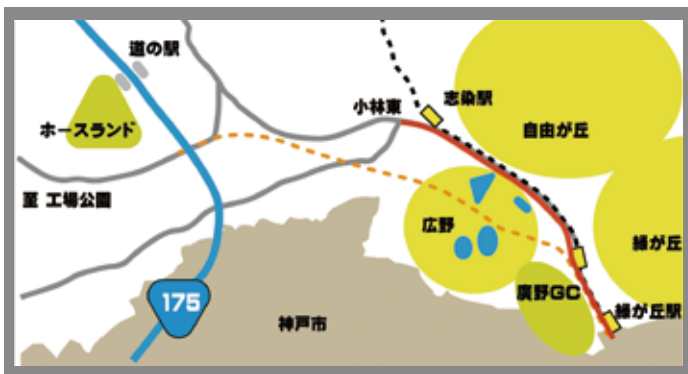
答 ■ 県土整備部長（糟谷昌俊）

県道三木宍粟線高木末広バイパスについて、事業区間のうち、北側の美濃川架橋区間では、平成30年度に橋梁上部工工事に着手し、残る右岸側の取り付け部の工事などを行い、平成31年度の供用を目指す。南側の県道加古川三田線までの区間については、未買収用地の用地交渉を進め、早期に全線供用できるよう事業推進に努める。

県道神戸三木線は、2車線改良済みであるものの神戸電鉄と並行する区間や志染駅前交差点、小林東交差点で慢性的に渋滞が発生している。渋滞の抜本的対策には、現道の南側に並行して計画されている都市計画道路神戸三木線の整備が有効であると考えられるが、約40年前に決定された計画であることから、まずは周辺道路の整備状況や交通量、将来のまちづくりの考え方等を踏まえた幅員や線形の見直しが必要であると考えます。このため、平成30年度から道路計画の見直しと併せて、優先的に整備する区間の選定についても三木市とともに検討を開始する。

今後とも市の協力を得ながら、三木市のまちづくりを支える幹線道路網の整備を推進していく。

◆県道神戸三木線周辺地図



-----: 都市計画道路神戸三木線

3 災害時要援護者支援について

質 災害時要援護者の命を守るためには、避難支援等関係者への情報提供や個別支援計画マイプランの作成が不可欠だが、個人情報問題もあり進んでいない。これらの課題解決には、地域住民に災害時要援護者の命を地域全体で守るという意義をいかに理解して頂くかが重要である。また、認知症高齢者に対する支援も今後の課題だ。高齢化の進展に伴う要介護認定者数の増加傾向を踏まえ、これまで以上の取り組みが必要だと考えるが、当局のご所見を伺う。

答 ■ 防災監（大久保博章）

災害時要援護者支援について、本県では昨年改定した支援指針に基づき市町に対策の強化を促し、要援護者名簿の情報共有を進める市町条例等の措置が進んでいる。市町や自主防災組織等による計画策定等を促進するため、手引や優良事例集、福祉避難所運営マニュアル等の提供も行い、避難用の車椅子等の資機材購入費の助成や専門家派遣等による地域での要援護者訓練の実施も支援をしている。

認知症高齢者等に対しては、家族や地域住民による支援と福祉専門職との連携が不可欠で、来年度は新たに、まず市町職員や福祉専門職を対象とする人材育成研修、また行政、自主防災組織、福祉事業所等による連携会議や避難支援者等を対象とする福祉理解の研修、さらに防災と福祉の連携促進シンポジウムを行う。また、県・市町合同防災訓練等でも、福祉避難所の設置や支援者による移送等、要援護者への配慮に重点を置く。県、市町、地域、支援団体等が一丸となって、要援護者の安全・安心の確保を推進していく。

4 特別支援学校における職業教育・キャリア教育の推進について

質 少子・高齢化社会の到来は、障害者の就労や社会進出を促す大きな契機でもある。就労に向けた専門的な職業教育が受けられる特別支援学校高等部において対応できる職種を増やしてはどうか。また特別支援学校小学部から高等部までの継続的なキャリア教育も重要であると考えますが、当局のご所見を伺う。

答 ■ 教育長（高井芳朗）

県は就職支援推進会議を設け、職業教育・キャリア教育を推進している。県立特別支援学校では、各学校ごとにキャリア教育発達段階表を作り、それぞれ発達段階に応じて一貫したキャリア教育を実施し、また児童生徒の個別の指導計画を担任と保護者の面談による意見交換を通じて作成し、学習指導に活用している。

高等部においては、清掃、接客といった職務を企業から専門的な助言を得ながら作業学習を進め、企業と協働で開発した技能検定を実施し、企業関係者から好評を頂いている。今年度は雇用が増加傾向に物流、品出しの部門を開発した。更に、生徒が希望の就職先を選択できるよう、新たな職場を開拓するために、県内に2名の就職支援コーディネーターを配置をしている。これらの結果、県立特別支援学校高等部卒業生の一般就労率は、平成25年度末の19.3%から、28年度には26.6%まで向上した。西神戸高等特別支援学校では、学校内での職業教育と企業における体験学習を両輪としたディアルシステムを構築し、企業や地域と連携した現場実習を多く導入している。これらの新しい取組の成果を今後のキャリア教育の推進につなげていく。

その他の村岡まゆこの活動をまとめました。

活動報告

本会議への出席

平成30年2月第339回定例会

【条例】

- ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例
- 住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例
- 障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例（議員提案による条例）
- 兵庫県議会議員の定数並びに選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の数に関する条例の一部を改正する条例等、等計37件を可決。

【その他の議決案件】

- 平成30年度一般会計予算（当初予算）
- 平成29年度一般会計補正予算
- 兵庫県地域創生戦略の変更、等計98件を可決。他に、意見書可決が請願採択がありました。

活動報告

その他の活動

部会・議連・地元行事等

- 【部会】 議会で所属する各常任委員会とは別に、私の会派内では各分野における政策について調査・研究する部会があります。私は文教部会に所属し、「数学・理科甲子園」を視察しました。また、ていですが、他の部会の研修にも積極的に参加し、産業労働部会の視察では燕三条等を訪問し、調査研究を実施しました。
- 【議連】 県議会には、会派内／超党派で様々な議員連盟があります。私も複数の議連に参加しており、「兵庫県議会神戸電鉄・粟生線を守る会議員連盟」では、事務局長を拝命致しております。
- 【地元行事】 各種自治組織、団体の行事に積極的に参加致しております。対面で地域の生のお声を頂ける貴重な機会です！

活動報告

予算特別委員会へ配属

予算特別委員会への出席

2月定例会の会期中、2月28日（水）から3月19日（月）までの日程で、平成30年度予算特別委員会が設置され、私も委員を仰せつかりました。付託された議案を審議するため、私も、企画県民部①・②、公安委員会、企業庁、教育委員会の5つの部局別審査において質問に立ちました。質問内容は、後日改めてご報告致します。



活動報告

国交省（近畿地方整備局）への陳情

東播磨道整備促進を要望

2月に大阪にて、国土交通省の近畿地方整備局長、道路部長他宛てに、兵庫県議会議員東播磨道促進会議として、東播磨道の整備促進に関する要望を行いました（藤原昭一議員、藤本百男議員と共に）。



活動報告

常任委員会への出席

産業労働常任委員会への出席

私は産業労働常任委員会に所属し、本年度は「AIや先端技術の利活用による中小企業の振興について」をテーマに取り組んでいます。委員会は毎月1回開催され、県下の各県民局・センター管内に赴き調査を行います。また、関東方面への調査もあり、サイバーダイン㈱や国立産総研等を視察しました。



活動報告

議場見学

地元小学校生徒の議場見学

地元三木市内の小学校4年生の皆さんが、議場へ見学に来てくれました。私や県庁職員の説明を熱心に聞いてメモを取る姿に、とても嬉しくなりました。議員にとっても小学生の議場見学は楽しみの行事です。

将来、この生徒の中から県議会議員や知事、はたまた内閣総理大臣が誕生するかも!?



兵庫県議会議員
村岡まゆこ事務所
〒673-0413 三木市大塚2丁目1-51

Tel. 0794-82-3313
Fax. 0794-82-3355
E-mail. info@miki-muraoka.jp
HP. http://www.miki-muraoka.jp

